



# 少年

年による重大な犯罪を伝える報道も、今ではそう珍しいものではなくなっている、そんなふう感じたこととはありませんか？ 大人ですら思いもつかない凄惨な犯行の数々は、現代という世相を如実に反映した「時代の証明」、その一端です。

もはや日常的にすなりつつある少年犯罪の報道、その影には、ニュースにならない多くの非行少年たちの存在が潜んでいます。生まれながらの非行少年は存在しません。誰もが成長を続けて行く上で、なにがしかのきっかけから道を外

けを与えること。それこそが、矯正教育と呼ばれる、少年法の根底にある考え方。神戸学院大学人文学部人間心理学科ここに、かつて少年鑑別所で心理技官を務め、現在は社会心理学を専門に教育と研究に携わる心理学のスベシヤリスト、吉野絹子教授がいます。大阪、京都、神戸、3つの大都市に設置された少年鑑別所で長年非行少年と関わり続けた経験から、吉野教授は非行少年が道を戻るきっかけ、そして非行に走らないためにもっとも効果的なものとは、何より「愛されている」という実感であると話します。

を持たない少年たちはどうでしょうか。何をもつて自分自身に価値を見いだせばいいのでしょうか。こうした時に、もっとも身近な存在である「親」こそが、少年たちに自尊心を与えなくてはならない、吉野教授はそう考えています。その方法とは、ただ、「愛する」ということ。勉強ができなくても、スポーツが苦手でも、絵や歌が下手であったとしても、ただその存在が愛おしい。そんな条件付けのない「無償の愛」こそ、少年たちの非行を予防し、非行からの更正を促す、何より効果的な特効薬。「愛されたい」という誰もが持つ気持ちが非行のもっとも大きな要因となるのなら、その解決策もまた、誰もが持つ「愛している」という気持ち。ただ、その気持ちをまっすぐに伝えるだけでいい。」吉野教授はそう話します。

# オールユーニード、 イズ、ラブ。

All you need is LOVE.



れてしまうもの。外れた道から戻ることができず、そのまま歩き続けたなら、やがてはニュースに取り上げられるほどの凄惨な犯罪に関わってしまうこともあるかもしれません。あるきっかけによって道を外れた少年に、同じく道を戻るきっかけ

何百人という少年と直に向き合い、一人ひとりの「心」と対話を続けた吉野教授が得たひとつの答えは、少年が非行に向かうもつとも大きな原因のひとつが「自尊心のなさ」であるということ。誰かに認められたい、自分の存在に価値が欲しい、そうした「誰もが持つ願い」が満たされない時、少年は非行への第一歩を踏み出すのだそう。勉強やスポーツなど、学校社会における「ものさし」に合致した特技を持つ少年ならば、自分の価値を自覚することは容易です。しかし、そうしたわかりやすい「ものさし」に合う長所

長年少年鑑別所で勤務した経験を生かし、「対人葛藤」をテーマに研究を続けると同時に、人間心理学科で学ぶ学生たちに教鞭を執る吉野教授。教員として何よりの醍醐味を感じるのには、「わかる」という感動が伝えられたとき、だと話します。資料収集やデータ分析など、小さな積み重ねが、やがて大きな「答え」を生み出す瞬間に、学生たちの顔は何より輝くのだそう。つらくとも努力したその過程は、きっと学生一人ひとりの自信につながる。その自信は、やがて学生たちが社会に出た時に、必ず「道」を指し示す道標となってくれるはず。吉野教授は、そう信じて今日も教壇から「わかる感動」を送り続けています。



# 神戸学院大学

●有瀬キャンパス / 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL.078-974-1551(代表) FAX.078-974-5689

【法学部】法律学科・国際関係法学科(2007年4月法律学科と統合) 【経済学部】経済学科・国際経済学科 【経営学部】経営学科  
【人文学部】人文学科・人間心理学科 【総合リハビリテーション学部】医療リハビリテーション学科・社会リハビリテーション学科 【栄養学部】栄養学科  
【薬学部】薬学科(6年制) 【大学院】法学研究科・経済学研究科・人間文化科学研究科・栄養学研究科・薬学研究科・食品薬品総合科学研究科

●長田キャンパス / 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 TEL.078-691-4888(代表) FAX.078-691-4333  
実務法学研究科(法科大学院)

ポートアイランド  
新キャンパス

2007年4月開設